

安 全 情 報

～ひったくりに注意～

「自分の身は、自分で守る。」をモットーにカンボジアライフを楽しく、良い思い出をつくるため、安全情報を提供させていただきます。

本号では、プノンペンで多発する「ひったくり事件」について、日本人旅行者の被害事例を基に注意喚起させていただきます。

（1）ケース1：トゥクトゥク乗車中におけるひったくり被害（プノンペン、シハヌーク通り）

～A子さん（25歳）は、カンボジアの隣国でボランティア団体の一員として活躍する海外在住の日本人。ボランティア団体での活動は、もうすぐ終了。「日本に帰ったら簡単に海外旅行などできない。ボランティアで、頑張った自分へのご褒美。」そんな思いから、最後の記念にと仲の良いBさんと二人で今話題のパワースポット「アンコールワット」への女性二人旅を企画した。

シアマリアップ州からカンボジアへ入国し、シアマリアップ州を旅のメインとして、最後に首都プノンペンから隣国へと出国する旅を計画した。

女性二人旅も終盤に入り、シアマリアップ州では、アンコール遺跡群を目のあたりにし、更には、親日的なカンボジア人と触れ合うことができ、「大変有意義な旅ができた。海外でのボランティア活動最後の旅行をカンボジアに選定して間違いなかった。」とシアマリアップ州での楽しい思い出をBさんと語らい、「カンボジアの首都プノンペンは、どんなところなんだろう。」などと思いを馳せつつ長距離バスでシアマリアップからプノンペンへと移動した。

プノンペンに着くと二人は、トゥクトゥクを拾った。長時間バスに揺られたせいか、少し疲れ気味であった。Aさんは、トゥクトゥクに揺られながらボーッとしてしまった。

その瞬間を「犯人」は見逃さなかった。後ろからバイクが近付いてきたなと思いきや、後方からスッと伸びた手が、Aさんの肩口にタスキ掛けにされていたショルダーバックの肩掛け紐を掴みそのままひったくったのである。Aさん一瞬何のことも分からず、引っ張られるが儘に上体を前のめりに曲げてしまった。後ろから来たバイクが、追い越し様にAさんのショルダーバックをひったくったのだ。

ひったくり防止のため、タスキ掛けにしてまで守っていたショルダーバックが、あっという間に盗まれてしまったのである。

A子さん、ハッと我に返り何とかしなくてはと、一瞬走っているトゥクトゥクから身を乗り出してしまふ。ひったくりに遭ったことをトゥクトゥクの運転手に身振り手振りで説明しようとするが、既にバイクはどこかへ立ち去っており、運転手は「何かあったの？」とノー天気な表情。

A子さん、「真っ昼間、こんなに人通りの多い大通りで、何でこんなことがあるの。信じられない。何とかして。」と運転手に言いたいのが、そこには言葉の壁が…。

Aさんは、高まる気持ちをぐっと抑え、油断した私が悪かったと思うしかないと自分に言い聞かせた。

A子さん、結局、この被害でショルダーバックと在中品の旅券や現金を盗まれてしまい、プノンペンで嫌な思い出を残すこととなってしまった。

(2) ケース2：リバーサイド散歩中におけるひったくり事案（プノンペン、シソワット通り）

～豪州在住のI美さん（42歳）は、パートナーの豪州人と一緒に休暇を利用してカンボジアを訪れた。シアムリアップ州でアンコールワット遺跡群を見て回り、豪州とは違った東南アジアの異文化に触れながら首都プノンペンへと移動した。

プノンペンでは、トールスレンミュージアム、キリングフィールドと見て回り、カンボジアの悲惨な歴史を知り、もう一つのカンボジアを垣間見た思いであった。

その夜、I美さんとパートナーは、リバーサイドのナイトマーケットに繰り出した。

リバーサイドは、もう午後10時を回ったというのに賑やかである。悲惨な歴史をぬぐい去るかのように浮かれ、お祭り気分のカンボジア人。彼らを見て、I美さんは、「本当に戦争は、終わったんだ。良かったね。」と平和になったカンボジアを実感しながらパートナーに寄り添いリバーサイドを散策していた。

その時、I美さんは、後方からバイクが近づいてくる気配を感じた。しかし、交通量の多い通りであったため、バイクが近づくことなど特に気にしなかった。

ところが、バイクが後方から通り過ぎていくと思った瞬間、I美さんは、後方からものすごい力で引っ張られ、その場に転倒し引きずられてしまった。

5メートルくらい引きずられたらどうか、左肩からタスキ掛けにしていた、ショルダーバックの肩掛け紐が引きちぎれてI美さんの体は止まった。

パートナーも突然のことで、一瞬唖然としてしまう。

I美さんは、パートナーに抱き起こされるが、そこにはお気に入りのショルダーバックの存在はなく、ボロボロになった服と血がにじみ出て、真紅に広がる痛々しい自分の姿をただ見つめるだけであった。

パートナーは、近くの人に救いを求めるが、皆、ただの野次馬、見ているだけで何もしない。

警察を呼んでくれと言っても誰も反応しない。

どんどん野次馬が集まる中、パートナーは「こんなに人がいるのに誰も何もしてくれないなんて、何という国なんだ。」と思いつつ、I美さんを抱きかかえ近くのホテルに飛び込んだ。

結局、I美さんは、ショルダーバックと在中品の現金、デジカメ、旅券を奪われた。

さらに、全治一週間の擦過傷・打撲傷と共に心に傷を負った。

(3) 各ケースにおける防犯的心構え

① ショルダーバックをタスキ掛けにしていれば大丈夫と過信しない。

～タスキ掛けにして、バックを肩から提げていれば狙われないということはない。

やはり、周りの状況に敏感になる。常に周囲の状況に気を配り賊を近づけてなるものかと威嚇することも必要。

② トウクトウ乗車は、お勧め出来ない。

～トウクトウに乗車する日本人をよく見かけるが、乗用自動車のように車内に乗込んだといっても周りが全てカバーされているのではないため、事故があった際は振り落とされるなどの危険性がある。

本年6月、深夜、トウクトウに乗車していた外国人観光客が、カンボジア人からパチンコ（ゴム管）で撃たれ負傷したり、瓦礫を投げつけられ怪我をしたという事件が数件発生した。

さらに、シアムリアップでは外国人観光客を乗せたトゥクトゥクが大型自動車と接触し、運転手が死亡、乗車していた外国人観光客が重傷を負うという交通事故が発生した。最近プノンペンでは、メータータクシーが普及し、無用な料金交渉も必要なく、また走った分だけメーターが料金を表示するため、無用なトラブルもない。現在のところ、メータータクシーでボッタくられたというような情報はない。逆に、トゥクトゥクでボッタくられたという情報がある。

③ 後方に注意（乗車位置、歩行方法に注意）。

～A子さんは、トゥクトゥクの進行方向を向いて後部座席路肩寄りに乗車していた。そのため、後方から近づくバイクに気がつかなかった。さらに路肩よりでバイクの通行する部分に近い位置であった。
乗車位置にも気を配る。中央部に位置して所持品を自分の体の前に持ってくる。
～I美さんは、路肩をパートナーと寄り添い道路側を歩行していた。そのため、バイクの通行する道路側であったため、パートナーの壁が出来ず、賊のターゲットとなってしまった。
歩行する際は、弱者を道路側でなく路肩側に位置する。

④ その他

- ・他にも色々と考えられることがあると思いますが、一番は、自分自身で危機管理できるよう、常に防犯に心掛けることです。内戦や武力闘争などは、皆無になったといっても、一般犯罪はどこにでも存在します。
特に深夜、徒歩での外出やバイクタクシー（通称：モトドップ）の利用は、お勧め出来ません。まだまだ、銃器を使用した犯罪が発生しています。
- ・上記ケースに関し、現在のところ犯人が捕まったという連絡はありません。
当国においては、何かあったら、警察へ通報して犯人を捕まえてもらおう、被害品を探してもらおう、などと期待される警察になるには、まだまだ時間がかかりそうです。

カンボジアが、安全になったとはいえ犯罪の発生は皆無ではありません。海外では特に注意し
○危険な場所には近づかない。○多額の現金、貴重品は持ち歩かない。○犯罪にあっても抵抗しない。○見知らぬ人を安易に信用しない。○買い物は信用のおける店を選ぶ。○ホテルの中でも安心しない。など防犯に心掛けて下さい。（了）